

13 短歌を味わう

学年	
組	
名前	

1 次の短歌の意味にあてはまるものを、後から選び、記号で答えましょう。

① ふるさとのなまりなつかし停車場の人ごみの中にそれを聴きにゆく

()

② 海恋し潮の遠鳴りかぞえては少女おとめとなりし父母の家

()

- ア ひさしぶりにふるさとの駅に立つ喜びをうたっている。
- イ 都会に住みながら、ふるさを思う気持ちを歌っている。
- ウ 自分が育った生家をなつかしくうたっている。
- エ 夏の日のできごとを、思い出しながらうたっている。

2 次の文章の(ア)(イ)(ウ)に言葉を入れて、「短歌」について説明する文章にしましょう。

短歌は、日本独特の短い詩です。五・七・五・七・七の三十一音で表現されるのがふつうです。奈良時代の終わりに、(ア) という歌集が作られてから、今にいたるまで、千年以上の(イ)があります。

(ウ)の美しさを、五音と七音の組み合わせに見だし、短い言葉で自分を表現しようとした昔の人の心は、現在にも受けつがれています。

- ア・・・)
- イ・・・)
- ウ・・・)